

# 雜 錄

## ●震災に因る被害製鐵所の損害調査

各製鐵所共設備に對する損害、休業中の職工給料、賣掛金の回收不能其他種々なる間接損害相當多額に上る見込なるも調査今に付かざるを以て掲載せず。

### 調査製鐵所名

- 日本鋼管株式會社 淺野造船所製板工場
- 富士製鋼株式會社 日本特殊鋼合資會社
- 月島鑄鋼株式會社 日東製鋼會社岩淵工場
- 神戸棧橋會社王子工場 隅田川製鐵所
- 東京鋼材株式會社 株式會社大島製鋼所
- 日本鑄鋼株式會社

### 日本鋼管株式會社

資本金二千百萬圓

#### 1. 製鐵工場

- 熔鑄爐 二〇噸一基 二五噸二基

スポンヂ鐵製造爐 二基

#### 被害程度

爐體には被害なし爐底は龜裂を生じ砂を噴出せり煙突倒裂し送風機大破し機械にも損傷あり、元來當工場は休戦以來休業し其の恢復至難と目せられたるを以て今回の震災による被害に對しても復舊計畫未だ立ち居らず。

スポンヂ工場内サツガー工場は揚水塔倒壊サツガー燒成爐中央陥没し左右に開き使用に耐えざる可し、スポンヂ工場爐底著しく隆起し龜裂を生じたる所あり、浸水一尺乃至二尺に達す。

選工場全壞使用に耐えず。

スポンヂ鐵工場は試験再開の準備を完了し、サツガー工場は已に火を入れ加熱中前途の如き被害を受けたるを以て復舊至難なり、廢棄する豫定なり。

#### 2. 製鋼工場

#### 平爐 三五噸九基

平爐工場は海岸に接近せる爲め地盤頗る變動を來し被害多し。

爐體 一號及九號爐は震害當時爐内に熔鋼を有せざりし爲め被害少き見込、他の爐は何れも八噸乃至二〇噸の熔鋼を有し其一部溢出したる外瓦斯發生爐の故障の爲め瓦斯供給絶えたる爲め應急手當として各戸口を密閉したるも其後短時間にて恢復する能はざりしを以て爐内に固結したり(寧ろ取敢ず出鋼せば現在の如き被害を受けざりしならん)爲めに爐の上部煉瓦及金物の大部を取外し固結物を取除く要あり。

蓄熱室 未だ内部を調査せざるを以て被害程度不明なるも下水道瓦斯煙道等の被害状況より見て相當被害を蒙れる豫定なり。

#### 3. 瓦斯發生爐

第五號乃至第九號平爐に對する瓦斯發生爐はピットの側壁及底部被害を受け湧水あり、使用に耐えざる見込にて取片附けの豫定(爐は重油燃燒式に改造計畫中なり)

一號乃至四號に對する發生爐は修理を加へて使用に耐ゆる見込せず。

#### 4. 其他煙突

第二號爐第七號乃至九號の煙突倒 し平 工場上屋を破壊す其他何れも傾斜せり。

#### 第二鋼管工場

- ピアサー 一 壓延機 三 絞リロール 一

調査未了なるも海岸に近接せるを以て地下の被害多き見込なり、加熱爐の瓦斯煙道は水を噴出し目下掘返し中なり、壓延機は多少の狂ひあるも修理困難ならず。

#### 第一鋼管工場

- ピアサー 一 壓延機 四

第二鋼管工場より被害少き見込なり。

#### 中形工場

- ロール機 四(粗ロール共)

附屬瓦斯式加熱爐は使用に耐えず、石炭燃燒爐にて十月二日より主として三時アングルの製造を開始す。

#### 第一小形工場

粗ロール 一 仕上ロール 四  
床修理済拾月末作業開始

第二小形工場

粗ロール 一 仕上ロール 四

被害程度調未了

第三小形工場

粗ロール 三 仕上ロール 三

八甲板工場を改造したるものにして被害程度調査未了。

### 浅野造船所製板工場

投資額六百萬圓

#### 1. 壓延工場

瓦斯發生爐 九

基發生爐木造建築倒壊し八分通焼失、コンクリート製瓦斯道破損するも修理容易なる見込なり。

發生爐三基丈は破損せず之を使用し他は放置する見込なり。

ボイラー基礎 傾斜し附屬物破損するも修理容易なる見込。

分析室傾斜す

加熱爐

均熱爐及連續式加熱爐の煙突倒壊せし爲め屋根ガーター等全部倒壊す。

シーメンス加熱爐二基とも倒壊す、尙煙突に龜裂を生ず。

鋼片置場 ガーダー及柱傾斜す。

#### 2. 壓延機

ロール機 一 電動機 矯正機

ロール機には殆ど異状なし。

電動機の基礎傾斜、修理を要せず、矯正機基礎傾斜し据付直しをなす見込。

ロール施盤は基礎の改造をなす豫定なり。

轉覆機

基礎及金物破損し改築を要するや否やは未定。

ストレートニング、テーブル

基礎中央陥没す、基礎一部改造。

ガーダー及柱

8. 精 整  
起重機は大體使用に耐ゆるを以て容易に修理されん。

秤量機 ガーダー柱

破損及基礎傾斜、全部改築の豫定。

曲り又は陥没す全部修理の見込。

剪斷機

三臺とも基礎傾斜す金物丈据付換をなす豫定。

クリーニング、テーブル

基礎、陥没、傾斜。

#### 4. 其 他

運 轉

ポンプ

基礎傾斜

蓄壓機

傾斜

運輸

起重機 一五噸一 五噸一

地面陥没の爲め傾斜。

構内鐵道

線路大部分傾斜陥没。

一般地面

龜裂甚しく運搬困難なり。

### 富士製鋼株式會社 (川崎大師)

資本金七百八十萬圓

#### 1. 製銑工場

再製銑爐 四(二噸一、三噸一、七噸二)

此の爐は從來休業中のものにして震災により建物全部倒壊せるも爐體には異状なし、但し二噸及三噸爐は腐蝕使用に耐えざるものなり。

未完成再製銑爐 二

全潰し修繕の見込なし。

#### 2. 製鋼工場(浅野造船所委管)

平爐 二五噸一 一五噸一 一〇噸一  
 屋根半傾せるも爐體にありては多少の修理を施せば作業上差支なき見込、但し震災當時作業中なりし十五噸爐は熔鋼全部硬化し之が除去には相當の困難あるべし。

瓦斯發生爐 八  
 屋根全部倒壊せるも爐體には故障なき見込、但し煙突、倒壊の爲め煙道の破損あり。

煙突

一〇噸爐 二五噸爐用煙突中斷し、尙未設平爐附屬二基中斷せり。  
 造塊  
 起重機には故障なきも、ガーダー破損せる爲め之が運轉困難なり。

3. 其他

機械工場(汽車會社委管)  
 殆ど損害なし。

鍛冶工場

屋根倒壊せるも機械には故障なき見込。

苦灰工場

苦灰燒爐四基の内一基(作業休止のもの)傾斜せり他は故障なし。

鑄物工場(通商會社委管)

小修繕を施し作業中なり。

汽罐室

上家半潰し汽罐二基の中一基は煉瓦積崩壊せり。

變壓所

輕微の被害あるも應急修理の上送電中なり。

未完成鍛冶工場

屋根倒壊し煙突中斷せり。

4. 復舊計畫

平爐二基は發生爐及煙突に故障なきを以て爐體其他に應急修理を施し作業を開始し造塊工場内に小形壓延工場を新設の豫定なり、尙之が復舊に要する正確なる金額及時期は目下調査中なり。

日本特殊鋼資會社(大森海岸)

資本金百萬圓

1. 製鋼工場

シーメンヌ坩堝爐 三

爐體には故障なきも、蓄熱室前の煉瓦積に多少の破損あり。

電氣爐一

故障なし。

瓦斯發生爐

故障なし。

2. 壓延工場

小形壓延工場一

故障なし。

鋼片ロール機

故障なし。

3. 鍛鋼工場(蒸氣槌一五)

故障なし。

4. 其他

仕上工場及修繕工場

故障なし。

混泥土製防波壁

傾斜し之が修繕には相當の費用を要する見込なり。

5. 復舊計畫

直接作業上差支ふる部分の被害なき爲め九月十三日より作業を開始し傍ら修繕に着手せり。

月島鑄鋼株式會社

資本金六拾萬圓

再製銑工場

再製銑爐二(二噸一、一・五噸一)

小修繕にて使用することを得。

製鋼工場

轉爐二(二噸一、一噸一)

小修繕にて使用することを得。

乾燥爐燒鈍爐  
故障なし。

機械工場其他の設備

相當修繕を要す。

建築物(各工場とも)

全焼

復舊計畫

註文も相當あるを以て復舊工事を急ぎ十二月より作業を開始する豫定にして復舊費約十一萬圓なり。

### 日東製鋼會社岩淵工場

製鋼工場

平爐(五噸)二

故障なし。

瓦斯發生爐 一

故障なし。

機械工場其他附屬設備

故障なし。

建築物

屋根多少破損す。

復舊計畫

當會社は、大正五年大塚榮吉氏個人經營にてカーバイド、合金銃を製造し其後株式會社岩淵工場年改稱し、大正九年日東製鋼會社に合併し本年七月二十日解散し目下精算中なり。

### 神戸棧橋會社王子工場

資本金百八拾萬圓

製鋼工場

電氣爐(ヘルー三相式一・五噸)三

屋根倒潰し起重機に多少の破損あるも爐體には故障なし。

變壓機(三・五〇キロワット三、五〇キロワット三、一〇キロワット三)

故障なし。

澁物工場

屋根全部倒壊し、コンクリート柱半傾し、起重機落下し乾燥爐破壊し配合室破損す。

機械工場

建築物基礎に多少狂ひを生じたるも機械には故障なし。

鍛冶工場

全部倒壊す。

倉庫

半倒潰。

事務室

全部倒潰。

復舊計畫

從來當工場は、缺損續きたるを以て、震災に由て設備破損せる爲め註文先なる石川島造船所、芝浦製作所、横濱船梁會社よりの註文中止せる爲め當分休業することとし、職員職工は殘務を整理するに要する數名を除き全部解散し作業時期の見込立たず、差當り復舊に要する金額は五萬圓位にして修繕に要する日數も二ヶ月を要する見込なり。

### 隅田川製鐵所

資本金百五十萬圓

銑工場

再製銑爐(二・五噸) 一

故障なし。

熔銑爐 二

故障なし。

鑄物工場

木床落下し鐵管用鑄形に多少破損あり。

事務所

全部倒潰。

復舊計畫

復舊費二萬圓にて作業を開始し得るも現在に於ては註文中止せる爲め復舊に對する方針を確定し得ざれども大體に於ては註文あり次第作業を開始し得らるゝ様修繕し置く方針なり、此際瓦斯水道中止され鐵管に對する需要の減するを

恐るゝなり。

東京鋼材株式會社 (府下大島町六丁目)

資本金三百萬圓

工場設備の被害程度

坩堝工場

工場倒壊

倉庫

倒潰

食堂

倒壊

メンシヤフト

折損

其他重なる被害

商品の紛失其他

賣掛金の回收不能

工場休業中の損失

復舊計畫

倒壊せる坩堝工場は其儘放棄し一ケ年後に於て修理恢復する豫定。

震火災應急家屋の建築用として鐵骨組立家屋(一坪當百二十圓以上)の材料

を製造中なり、既に鐵道省第百銀行其他より注文を受けたり。

其他今後の計畫見込立たず、但し極力現況を持續するに努むるの外處置なし。

株式會社大島造鋼所 (府下大島町)

資本金六百萬圓

I. 工場

木型倉庫 二階建

倒潰

機械、工場一棟

地盤陥落の爲め据付機械故障

倉庫兼原圖室 一棟

傾斜

設計、検査課一棟

地盤陥落の爲め沈下し外圍、石段廊下破損。

分析室一棟

地盤陥落の爲め傾料

設備

二十五噸製鋼爐並に瓦斯道、瓦斯發生爐

龜裂、浸水

乾燥爐、調砂機

破損、龜裂

心出し定盤、組立裝置、金物及基礎、傳導裝置、軟化爐、加熱爐及煙道

龜裂其他

製罐工場、原圖室、諸機械基礎、傳導裝置、電燈、電話線、其他電氣裝置

故障。

ボイラー、吸水ポンプ、パイピング

傾斜、沈下、折損。

ターミネーブル軌條

破損。

試験機

倒壊、沈下。

貯炭場

沈下。

掘抜井戸

缺潰

機械器具

木工用諸機械

破損、故障。

第一第二機械工場機械

故障、倒壊

蒸汽植及送風管

傾斜、沈下。

製罐工場据付機械

傾斜、沈下。

分析室諸器具

折損其他。

2. 其他

製品の被害

休業中手當、其他

工場休業及註文取消に因る損害

3. 復舊計畫

震災に因る復舊應急の處置として作業休止中、修理費約三萬圓を投じ大體震前の工場作業能率を維持するの方針を取れり。

### 日本鑄鋼株式會社 (府下大島町七丁目)

資本金一百萬圓

1. 設備の被害程度

木型工場

倒潰、直に他に移轉せり。

燒鈍爐及乾燥爐

内壁に故障を生じたるものありしも己に修理を了り作業を開始せり。

2. 其他の損害

工場休業中の損害

賣掛代金の回收不能

3. 復舊計畫

被害甚しからざりしを以て作業休止中破損せし箇所を修繕を行ひたるが故に復舊計畫なし。

## ●英國鐵鋼業狀況

(本年上半年期)

(八月七日、在倫敦帝國總領事堀義演報告)

### 一、鐵鋼產出額

英國鐵鋼の產出額は本年に入り各月増加し一九二二年以來の記録をなしたるが殊に本年五月に於ける七、一四二百噸及六月の六、九二九

百噸は戦後の好況時たりし一九二〇年一箇月平均產出高を超過する處ありたり、而して最近數年上半期產出額合計を觀るに一九二一年は戦後の最不況時に當り其合計も一五、六六四百噸に過ぎず、又昨年の一、四九三三噸に比すれば本年は三八、〇四二百噸に達し一九二〇年好況時の四、一四五千噸に對しては尙三、四〇八百噸を減少せるも大體に斯業恢復著しきものあるを觀るべし、勿論右產出激増の主要原因と目すべきは佛國のルール占領に伴ふ英國鐵鋼品需要の旺盛に因り作業を擴張して其產出に努めたるに因るものにして就中此等増加は主として鋼鐵用鉄鐵の増加にして四月末作業鑄鑪數は同月上旬の二百二爐に比し二百十六爐となり六月末現在に於ては更に増加して二百二十二爐となれり、而して鋼鐵の產出高更に著しき増加進境の跡あり即ち本年一月及二月を除きては各月八十萬噸内外を上下し戦後最好時の一九二〇年上半期合計高四、八七七千噸に對し、四八一八百噸となり僅に三、九五二百噸の減少に止る右激増は前述鉄鐵の場合と同じくルール問題の齎したる英國鐵鋼製品の需要に主因せるも右は二月末より三月中を好況の天井として其後ルール問題の停帯と同時に狂奔の市況の反動來の爲四月以後市況は稍々沈靜して當時の刺戟材料なきに至りしも植民地南米諸國及印度支那及日本方面の需要相當なりし爲斯業依然繁忙にして六月中產出高は七、六七七百噸となり五月の夫に比し減退せるも同月の八二一十噸は最近數年は勿論戦前になき記録を示せるものなり、最近英國鐵鋼產出高左の如し。

英國鐵鋼產出額表 (單位一噸は二、二四〇封度)

|       |       |         |
|-------|-------|---------|
| 一九二二年 | 一箇月平均 | 七二九、〇〇〇 |
| 一九一三年 | 同     | 八五五、〇〇〇 |
| 一九二〇年 | 同     | 六六九、五〇〇 |
| 一九二一年 | 同     | 二一八、〇〇〇 |
| 一九二二年 | 同     | 四〇八、三〇〇 |
| 一九二三年 | 一月    | 五六七、九〇〇 |
| 同     | 二月    | 五四三、四〇〇 |

|   |        |           |       |
|---|--------|-----------|-------|
| 同 | 三月     | 六三三、三七〇   | 一九二三年 |
| 同 | 四月     | 六五二、二〇〇   | 同     |
| 同 | 五月     | 七一四、二〇〇   | 同     |
| 同 | 六月     | 六九二、九〇〇   | 同     |
| 同 | 上半期產出高 | 四、一四五、〇〇〇 | 一九二〇年 |
| 同 |        | 一、五六六、四〇〇 | 一九二一年 |
| 同 |        | 二、一四九、三〇〇 | 一九二二年 |
| 同 |        | 三、八〇四、二〇〇 | 一九二三年 |

英國鋼鐵產出高 (單位同前)

|       |         |
|-------|---------|
| 一筒月平均 | 五五六、〇〇〇 |
| 一九二二年 | 六三八、六〇〇 |
| 一九一三年 | 七五五、六〇〇 |
| 同     | 四八六、〇〇〇 |
| 同     | 六三四、一〇〇 |
| 同     | 七〇七、一〇〇 |

鐵鋼輸出額は本年各月累増し五月を最高とし四、二四五百噸に達し六月に至り二六五、一四八噸に低落したるも尙前二年前上半期各月に比し著しき増加を維持せり、又本年上半期輸出合計は二二、一五六百噸にして同期一五、二九九百噸前々年八、七一九百噸及一九二〇年一六、五二七百噸に比し激増したるも一九一三年に比しては尙其九割に達するに過ぎず、最近三年上半期各月及主要輸出品左の如し。

最近三年上半期英國鐵鋼品輸出額月別

| 月別 | 一九二一年   | 一九二二年      | 一九二三年     |
|----|---------|------------|-----------|
| 一月 | 二五三、三五四 | 五、八五九、七一六  | 三五三、三八九   |
| 二月 | 二二三、六一六 | 四、六六五、三五三  | 三一七、五六八   |
| 三月 | 二九五、八二〇 | 五、七五七、四二八  | 三六八、〇七二   |
| 四月 | 二五八、四一三 | 四、九七九、二三八  | 三八六、九五七   |
| 五月 | 一六〇、一三三 | 二七二、四三七    | 四二四、五〇九   |
| 六月 | 九九、〇一四  | 四、八二四、六九一  | 三六五、一四八   |
| 合計 | 八七一、九四九 | 三〇、三五九、一四九 | 二、二一五、六四三 |

最近三年上半期英國鐵鋼主要製品輸出額

| 品目 | 一九二一年           | 一九二二年             | 一九二三年             |
|----|-----------------|-------------------|-------------------|
| 鐵  | 數(噸) 五七、一二六     | 數(噸) 二一八、五七六      | 數(噸) 四三九、六七六      |
|    | 價(額(磅)) 六五五、一三〇 | 價(額(磅)) 一、一三四、四二九 | 價(額(磅)) 二、四三〇、九四一 |
| 銻  | 數(噸) 二〇、六六〇     | 數(噸) 五五、八六七       | 數(噸) 九三、四七一       |
|    | 價(額(磅)) 五〇三、九八〇 | 價(額(磅)) 七一五、五六二   | 價(額(磅)) 一、三二〇、六七六 |

フェロアロイス

鐵條、竿、アングル型類  
 鋼條、竿、アングル型類  
 鋼桁、梁、柱類  
 鋼 箍 類  
 鐵鋼板(厚さ八分の一  
 吋以上のもの)  
 同(同八分の一吋  
 以下のもの)  
 アフックプレート  
 亞鉛引鐵板  
 鑄詰及荷造用薄鐵板  
 鐵鋼筒管  
 鍊 鐵  
 鐵道軌道及其  
 他諸鐵材料  
 鐵 鋼 線  
 鐵 鋼 索  
 鐵鋼螺旋釘類  
 其他鐵鋼製品

|         |            |           |            |           |            |
|---------|------------|-----------|------------|-----------|------------|
| 一七三一一   | 六〇八、二一〇    | 一四、一三七    | 二三七、三二七    | 二〇、二二二    | 二七四、八八一    |
| 五七、五六三  | 二、〇二九、七六五  | 八六、一一五    | 一、二七五、一一一  | 一六八、九九七   | 二、一三九、九八六  |
| 二二、九三三  | 六九四、〇〇七    | 二七、三四五    | 三二四、六六九    | 三五、七三八    | 三五四、六三一    |
| 九、七七五   | 三三一、六六八    | 一九、〇二八    | 三一〇、六七三    | 三五、四二六    | 五一〇、六四七    |
| 九五、一一四  | 二、七八三、〇一〇  | 三三、九七六    | 四五三、六七三    | 八五、三五八    | 九四三、六三二    |
| 二五、二四六  | 九七四、〇三三    | 七八、〇九一    | 一、二〇七、八二〇  | 一三七、四三六   | 二、一七五、〇八六  |
| 六、〇五二   | 二六一、六二五    | 二六、八二二    | 四四七、四三六    | 二八、四九三    | 四八五、八五四    |
| 五九、〇九七  | 二、二三六、六〇九  | 二六五、四四四   | 五、二八六、二二八  | 三〇五、七六九   | 六、二二二、八八九  |
| 一〇六、二三四 | 五、三五五、七一一  | 二二〇、五六八   | 四、九〇一、二二二  | 二八一、八七二   | 六、一三三、四〇九  |
| 三四、七〇四  | 一、〇二四、〇二二  | 二七、七九一    | 四六四、四二二    | 四三、九四六    | 六〇七、〇九八    |
| 四八、一六九  | 三、四九七、四九五  | 三四、一七五    | 一、三二一、八一五  | 七六、九四三    | 二、一七二、五九二  |
| 一六五、七〇〇 | 六、〇七〇、九五〇  | 二八〇、〇六〇   | 四、六七〇、一一一  | 二二二、二七二   | 三、一八二、六九〇  |
| 一一、八八八  | 八二三、二三一    | 一八、五四六    | 五五九、〇二八    | 四一、八三三    | 一、〇六八、九四七  |
| 一〇、九三五  | 一、〇一七、九四八  | 一三、一七七    | 七四九、七六四    | 二五、二五九    | 一、一七四、四三一  |
| 一四、〇一一  | 一、一〇二、二九九  | 一三、六九〇    | 六〇九、一六三    | 二二、二〇三    | 八〇四、〇五八    |
| 七三、二六二  | 四、八六一、七三五  | 七八、八四五    | 三、三七五、五〇〇  | 七六、八八一    | 二、六四七、九五七  |
| 八七一、九九九 | 三八、一五〇、四八二 | 一、五三九、九三八 | 三〇、三五九、一四九 | 二、二一五、六四三 | 三七、〇四九、〇五六 |

最近殊に輸出の増加せるは獨逸に對するものにして本年一月以降各月累増し平均一箇月輸出噸數は二〇九百噸前年の平均噸六、八九五噸に比し約三倍又戰前一九一三年に比するも四三百噸の増加なり、右は鐵及石炭主要産地たるルール地方を占領せられ同國內地斯業大打撃を蒙り其生産一時殆ど休止の已むなきに至りし結果其供給を海外殊に英國に求むるに至りしに由るものなるが、佛國のルール地方占領中獨逸需要は引續き英國に來市するものあるべく從て獨逸向輸出も今俄に減退することなかるべし、而して佛國及白耳義に對する輸出増加も亦同様の原因により英國品を需要する事多く本年初め各月の輸出激増したるも四月以降稍々減退し本年上半期一箇月平均輸出噸は前年の夫に比し増加したるも白耳義を除き伊太利和蘭其他歐洲諸國と同様戰前に比しては其額尙遙に下位に在り而して英國鐵鋼大需要地は印度及錫蘭

にして濠洲之に次ぎ此外南阿聯邦新西蘭及加奈陀は英國植民地中主要輸出先なり、而して南米諸國中アルゼンチン及ブラジルに對しては戰後輸出激減し本年に入り稍々好況なりしも戰前に此すれば尙著減なり、反之日本及米國向輸出は戰前戰後を通じ何れも増加記録をなし殊に米國に對しては本年上半期一箇月平均三八六噸前年の二二六噸及一九一三年の一四九噸に比し顯著なる増加と謂ふべし。  
 翻て日本に對する輸出を觀るに本年上半期一箇月平均二二三百噸前年の一萬噸に比し倍額を超え、戰前一九一三年の一九八噸に比するも尙増加せるを觀るべし、本邦への輸出主要品は鐵鋼板就中薄板八分の一吋以下のものにして右は輸出總額に對し數量に於て亦價額に於て約其七割を占む又同期鐵鋼薄板の英國輸出總額は一三七、四三六噸二、一七五、〇八六磅なれば本邦への輸出額八四、〇七五噸一、三六五、三二一



八磅は夫々約六割を超ゆるものあり、薄板に次では鉄力鐵鋼厚板（八分二吋以上のもの）鋼條竿アングル型類亞鉛引鐵鋼板鍊鐵等にして亞

鉛引鐵鋼板を除き前年同期に比し何れも激増せり。

最近三年上半期英國鐵鋼本邦主要輸出額

| 品目              | 一九二一年      |            | 一九二二年              |         | 一九二三年  |           |
|-----------------|------------|------------|--------------------|---------|--------|-----------|
|                 | 數量(噸)      | 價額(磅)      | 數量(噸)              | 價額(磅)   | 數量(噸)  | 價額(磅)     |
| 鐵條、竿アングル型類      | 一、一六一      | 三七、五九八     | 七三四                | 一二、八五九  | 四九九    | 七、五三九     |
| 鋼條、竿、アングル型類     | 二、二二四      | 八八、五〇〇     | 五、二四〇              | 六一、五三八  | 一一、四六九 | 一四六、九一四   |
| 鐵鋼板(八分の一吋以上平板)  | 一九、三二二     | 五八九、三六三    | 四、七六七              | 六四、六四八  | 五、三五四  | 四六、四七八    |
| 鐵鋼板(八分の一吋以下平板)  | 四、五六〇      | 二二一、五二七    | 二五、八九八             | 四一六、六七四 | 八四、〇七五 | 一、三六五、三二八 |
| 同               | 二、八〇二      | 一一〇、八八九    | 六、七二七              | 一五六、三〇四 | 一、四二一  | 二七、九四五    |
| 亞鉛引鐵鋼板          | 四、一〇五      | 一八二、一九七    | 一一、〇〇五             | 二五七、八三八 | 一五、二八三 | 三三七、二二五   |
| 鍊鐵              | 六〇八        | 五一、八七七     | 七二二                | 四六、二六五  | 一、一九八  | 四〇、四六一    |
| 英國鐵鋼輸出國別數量(單位噸) | 一九一三年一ヶ月平均 | 一九二二年一ヶ月平均 | 一九二三年(自一月至六月)一ヶ月平均 |         |        |           |
| 獨逸              | 一六、六〇六     | 六、八九五      | 二〇、九九九             |         |        |           |
| 和蘭              | 一一、一九二     | 四、四一三      | 六、六二五              |         |        |           |
| 白耳義             | 一〇、四八六     | 九、二六〇      | 一一、三六四             |         |        |           |
| 佛蘭西             | 一九、九三四     | 一〇、九二七     | 一一、三三〇             |         |        |           |
| 伊太利             | 一一、九八四     | 七、三三四      | 八、四九〇              |         |        |           |
| 日本              | 一九、八四〇     | 一〇、一四一     | 二一、三六六             |         |        |           |
| アラビヤ            | 九、八〇九      | 一、五四七      | 二、五〇三              |         |        |           |
| アルゼンチン          | 二九、八七五     | 一〇、〇二〇     | 一三、八五二             |         |        |           |
| 米國              | 一四、九一一     | 二、三、六二四    | 三、八、六六〇            |         |        |           |
| 外國合計            | 二二一、六七二    | 一一六、〇二四    | 一七九、〇六六            |         |        |           |
| 印度及錫蘭           | 七四、六八〇     | 五五、四三九     | 五五、二三〇             |         |        |           |
| 海峽殖民地           | 六、九八二      | 二、五七二      | 三、四〇九              |         |        |           |
| 南阿聯邦            | 二一、七二六     | 八、九六八      | 一一、七五二             |         |        |           |
| 加奈陀             | 一五、六〇五     | 八、五八八      | 八、一五四              |         |        |           |
| 濠洲              | 四七、二五七     | 三〇、一二七     | 四二、〇一一             |         |        |           |
| 新西蘭             |            |            | 一二、八三九             |         |        | 六、七〇七     |
| 英領殖民地合計         |            |            | 一九二、四三〇            |         |        | 一一三、三二七   |
| 其他              |            |            | 四四、〇〇〇             |         |        | 四四、〇〇〇    |
| 輸出總計            |            |            | 四二四、二〇二            |         |        | 二八三、三八五   |
| 三、鐵鋼輸入額         |            |            |                    |         |        | 三六九、二七四   |

本年上半期中鐵鋼輸入額は三三〇萬噸にして前年の一、五七八千噸及前々年一、二八四千噸に比し著しき増加なるが右は前述のルール問題により斯業の好況に因り材料を海外に求めたる結果にして鐵鑛最大供給國は西班牙にして輸入總額の約半額に達す此外アルゼリア諸威瑞典チユニスは主要輸入國なり、而して右鐵道軌條其他鐵鋼屑古物等に於て製作の用に供せらるべき諸材料の輸入も同様増加して九七千噸に達す。

而して鐵鋼製品輸入額は本年上半期合計六六五、二三七噸六、七一〇、六九三磅にして前年に比し噸數に於て二、七四五百噸、價格に於て一、六〇八千磅の増加なるが前々年に比しては數量に於て七〇六百噸價額に於て約半減せり。輸入國中白耳義其半を占め佛國ルクセムブル

グ瑞典獨逸等之に次ぐ、而して此等輸入品は鐵鋼條竿棒線類半製品多し。

|                     |            |          |
|---------------------|------------|----------|
| 一九二一年上半年<br>鐵鋼製品輸入額 | 數 (噸)      | 價 (額(磅)) |
| 七三五、八〇三             | 一三、八七五、五八九 |          |

|            |         |           |
|------------|---------|-----------|
| 一九二二年上半年   | 三九〇、七七七 | 五、二〇二、三二五 |
| 同 一九二三年上半年 | 六六五、二三七 | 六、七二〇、六九三 |

最近三年上半年期鐵鑛及鐵屑輸入額

| 國 別      | 一 九 二 一 年 |           | 一 九 二 二 年 |           | 一 九 二 三 年 |           |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|          | 數 (噸)     | 價 (額(磅))  | 數 (噸)     | 價 (額(磅))  | 數 (噸)     | 價 (額(磅))  |
| 瑞 典      | 一一〇、一八〇   | 二四三、七四〇   | 九四、七八五    | 一三八、五〇〇   | 二九八、四三〇   | 四一七、二七三   |
| 諾 威      | 二八、九〇〇    | 六五、四四一    | 四九、七九五    | 二六三、三〇一   | 二六三、三〇一   | 四〇〇、二六八   |
| 西 班 牙    | 五二四、七四〇   | 一、〇八四、六〇六 | 七九七、九二八   | 一、五四一、二九五 | 一、五四一、二九五 | 一、七二四、三八〇 |
| ア ルゼ リ ア | 二八六、一三四   | 五八〇、四五〇   | 三六七、四六九   | 四八一、一二〇   | 四八一、一二〇   | 五三三、九九四   |
| 希 臘      | 三三、一六〇    | 五七、一五四    | 四、九六五     | 五四、〇五一    | 五四、〇五一    | 四九、四八七    |
| チ ュ ニ ス  | 一五〇、四六四   | 三四二、三四四   | 一〇五、七二〇   | 一六八、六〇五   | 一六八、六〇五   | 一八八、二二六   |
| 其 他      | 一五一、五八八   | 三七四、六二八   | 一五七、七六五   | 四九九、九五二   | 四九九、九五二   | 五七一、八〇一   |
| 鐵 屑      | 一一一、二八四   | 九三六、三九〇   | 六〇、一八九    | 九六、九八八    | 九六、九八八    | 四二二、二六五   |
| 合 計      | 一、三九五、四五〇 | 三、六八四、七五三 | 一、六三八、六一六 | 三、四〇三、七四二 | 三、四〇三、七四二 | 四、三〇八、六九四 |

四、本年上半期市況

本年一月末より三月に至る英國鐵鋼業の活況は一に佛國及白耳義のルール地方占領に基き歐洲諸國需要の英國に殺倒したるに因るものにして爲に市價暴騰し輻輳せる註文引渡に困難を來し數年になき意外のブームに遭遇したるが四月以降市況はルール問題の停滯と突發的人氣の後を受け反動的に漸次沈靜無活氣に向ひ市價漸落を辿るに至れるも尙生産者側は二月來の先註文引渡に作業比較的繁忙にして價格維持に苦心せるあるも大體に新規註文手薄とコークスの依然高値なりし爲先見悲觀勝なり、旁々需要者側に於ても大陸の政治的不安今日以上には混亂することなかるべく佛白諸工場の作業回復の情報もあり大陸半製

品の當地安値賣相次ぎ市價下落を氣構一般に日和見の態度を持続し來れり、五月に入りては大陸筋生産者の自國に於ける需要減を見越し昨年未の崩し値を以て英國市場に賣進つゝありしも其割合に需要者の買氣を刺戟せず番直接需要に終始せるの状態なり、六月に入り市況稍々持直し市價尙漸落の形なるも米國日本其他植民地方面の需要入市に刺戟せられ大陸筋不況に拘らず一部市況保合に在り斯くして本年上半期市況は前の如く英國鐵鋼産出高及貿易額と共に最近になき市況を以て本年上半期を終ることゝなれり、本年上半期各月英國鐵鋼主要品市價の如し。

英國鐵鋼主要製品價格價(F.O.B.)

| 品 目         | 一 月    | 二 月    | 三 月    | 四 月    | 五 月    | 六 月    |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| タンクプレート 英國品 | 一、八五、〇 | 八、一七、〇 | 九、一〇、〇 | 九、一五、〇 | 九、一〇、〇 | 九、一〇、〇 |
| 大陸品         | 六、一五、〇 | 八、〇〇、〇 | 九、〇〇、〇 | 九、一〇、〇 | 九、〇二、六 | 八、〇〇、〇 |

|                       |     |         |         |         |         |         |         |
|-----------------------|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| シロ・エー・ブ               | 英國品 | 一六、〇〇、〇 | 一七、一五、〇 | 二〇、一五、〇 | 二〇、〇二、六 | 二〇、〇五、〇 | 一八、一五、〇 |
| ラツクシート                | 英國品 | 二二、一五、〇 | 二六、〇〇、〇 | 二六、一〇、〇 | 二六、一〇、〇 | 二七、〇〇、〇 | 二五、一〇、〇 |
| ガルヴァナイズドマ<br>ルドスチールマラ | 同   | 二五、一五、〇 | 二八、〇〇、〇 | 二八、〇〇、〇 | 二八、一〇、〇 | 二八、〇〇、〇 | 二六、一五、〇 |
| ガルヴァナイズド<br>マイルドスチール  | 同   | 九、〇五、〇  | 九、一〇、〇  | 一一、一〇、〇 | 一一、〇〇、〇 | 一一、一〇、〇 | 一〇、一〇、〇 |
| ブラツクシート               | 大陸品 | 六、一五、〇  | 八、〇五、〇  | 九、〇五、〇  | 八、一〇、〇  | 八、〇〇、〇  | 七、一〇、〇  |
| マイルドスチール<br>バー        | 同   | 六、一五、〇  | 八、〇五、〇  | 九、一〇、〇  | 九、一五、〇  | 九、一〇、〇  | 九、〇五、〇  |
| マイルドスチール<br>マンガル及チヤン  | 英國品 | 六、〇〇、〇  | 八、一〇、〇  | 九、〇〇、〇  | 八、一五、〇  | 八、〇〇、〇  | 七、一〇、〇  |
| ネル類                   | 大陸品 | 六、一五、〇  | 八、〇五、〇  | 九、〇〇、〇  | 八、一五、〇  | 八、〇〇、〇  | 七、一〇、〇  |
| スチール(六〇封)             | 英國品 | 七、一〇、〇  | 八、一〇、〇  | 九、一〇、〇  | 一〇、〇〇、〇 | 九、一五、〇  | 九、一〇、〇  |
| スチール(六〇封)             | 大陸品 | 六、一〇、〇  | 七、一〇、〇  | 九、一〇、〇  | 九、〇〇、〇  | 八、〇五、〇  | 八、〇〇、〇  |
| 同(六〇封)                | 英國品 | 七、〇二、〇  | 八、〇五、〇  | 九、二五、〇  | 九、一五、〇  | 八、一〇、〇  | 八、五〇、〇  |
| 同(六〇封)                | 英國品 | 八、一〇、〇  | 一〇、〇〇、〇 | 一〇、一〇、〇 | 一〇、一〇、〇 | 一一、〇七、六 | 一〇、〇五、〇 |
| ソフトーメンスワ<br>イヤロツド     | 塊國品 | 八、一五、〇  | 一〇、一〇、〇 | 一〇、二五、〇 | 一〇、一五、〇 | 一一、〇七、六 | 一〇、〇二、六 |
| ルクゼンブルグ品              | 獨逸品 | 八、〇五、〇  | 一〇、一〇、〇 | 一〇、二五、〇 | 一〇、一五、〇 | 一一、〇七、六 | 一〇、〇一、六 |
| 白耳義品                  |     | 一       | 一       | 一       | 一       | 一       | 一       |

(完)

### ●印度製鐵業の將來(八月二十五日附、在カルカッタ帝國總事代理領事岩手 嘉雄)

印度財政調査委員の推薦に従て設立せられたる關稅會議は八月十六日よりジョージ・レニー氏議長の下にジャムシダプールに開催せられたるが、其委員はカール及ギンワラ教授孟買市タタ・アンドサン製鐵株式會社の支配人なるベターソン同會社を代表して出席し又ジャムシダプール製鐵會社の總支配人タルワー氏等出席し約二時間餘に亘りて目下印度に於ける製鐵業に關し討議研究せる所ありしが、其主なる事項は印度製鐵業の發達に必要な保護政策を講ぜんとするものにて此會議中發表されたる主なる點を指摘すれば印度に於ける鐵鑛石は現在

の企業を現在の割にて續行し今後約四百年乃至五百年間持續するに充分にして此鑛石はジャムシダプールの附近及中央州の諸地方に多く且又同地方は石炭の供給充分なりと、又其他の地方にて製鐵業に必要な石炭の供給に就ては中央州特にジエリア地方に大炭田を有し、又コークス製造に用ふる石炭の大量をも含有し居るが故國內産の石炭を用ひ得べしと、されば此製鐵業に何等かの保護政策を採るに於ては現下未だ幼稚の域を脱せざる印度製鐵業も廣大なる炭田と豊富なる鑛脈等自然の資源を有するが故良く世界の競争場裡に立ち活躍し得べく且又其原料を國外にも輸出し得べし、而して世界各國の製鐵額を見るに各國共歐戰中は其生産額著増したるも戰爭終熄の結果鐵材の購入等を差

控ふるに至り現今にては市場常に動搖し前途の豫測を許さず且又各國中米國最製鐵業盛んにして各會社悉く全力を盡して生産に努めつゝあるも英國にては殆ど其半數に過ぎざる可く獨逸にては殆ど皆無の狀態にあり。

今日迄英國其他諸外國より印度に輸入されたる鋼鐵は比較的安價なりし爲印度産鐵の國內に於ける價格の下落を懼れ安價に之を外國に輸出し居りたるが之印度製鐵業に多大の損害を與へたり、而して英國は印度に比すれば其市場大にして製産品にも剩餘あれば今後共尙安値に輸出し得べし、去れば英國品其他諸外國品の輸入防止の見地よりするも、將又國內製鐵業の發展を期する上に於ても政府の保護政策を目下の急務なりとす。

又同會議にて鑛石の堆積量に關する發表に依ればビハル及オリツサ地方に於る鐵鑛は地方政府の見積に依れば千四百萬噸にしてタタアン・ドサン製鐵會社は四億五千萬噸なりと謂ふ、政府地質調査局にては之を三十億萬噸なりと見積居れるが何れが確實なりや推斷し難きも多量の鑛石を含有する鑛脈の存することは事實なり、尙其調査する所に依れば鑛脈は約二百哩の面積に亘り、優に三百年間繼續して發掘し得べく又此鑛石中に含有する鐵分は約六割を占め英國鑛石の僅に二割に比すれば約三倍の鐵分を含有すと云ふ、又ベッターソン氏はタタアン・ドサン會社の營業成績に關し報告せるが自一九二〇年至一九二一年度には殆ど一億七十萬留比の純益ありしが自一九二一年至一九二二年度には七千七百萬留比に減じ、尙一九二二—二三年には十萬三千二百留比に減じたるが此大減少の原因は最近鐵鑛の價格安かりしに由り各國何れも國內に於ける自國品の價格下落を避んが爲安價に之を外國市場に輸出せしに由るものなり、印度製鐵業も又此影響を受け利益極めて尠く從て現今に於ては政府の保護政策を必要とするに至れる次第なり。

又製鐵業に必要な原料供給に就ては其工業地方の近傍に充分なる原料を有し之を控目に見積るもジャムンダブル附近には約五億五千萬噸の鐵鑛埋藏し居り、又政府地質調査委員は其地表を調査し十四億

萬噸は疑なしと云へり、タタアン・ドサン製鐵會社は九千百萬噸の瓦斯製造炭を要し三億八千七百萬噸の機關用炭と四億十萬噸のコークス炭を要すと尙同會社は現在企業を遂行するに充分なる白雲石を有し一年に四百四十萬噸を消費し又マンガン鑛石も其供給充分なりと、而して同會社製産品中の約六割はレールにして其全部を鐵道會社鐵道局等に供給し居れるが爲製産品に過剩を來すことなしと、同會社が鐵道會社鐵道局等とレール供給の契約をなせるは今より二年前の事にして四年後に至り満期となる筈なり。

曩に印度に於て英國製鐵業者と同盟して斯業を企てし、二三の大會社ありしも、目下何れも不振の極にあり、從て現今印度唯一の大製鐵會社たるタタアン・ドサン會社は自ら進んで價格を引下ぐるの意志なしとの事なり。

## ●對震災獨逸輿論

(九月八日在獨大野臨時代理大使報告)

今回の大震災に對する獨逸新聞論調を綜合するに小新聞は一般に日本が回復に多數の日子を要すべく其國際的政治的地位にも亦動搖を來すべしと稍々誇大に論議し居るも大新聞は概して同情を以て其未曾有の大椿事なるを報じ日本に取り經濟的大打撃なると同時に世界經濟にも亦影響あるべきを傳へ居れるに過ぎず、クロイツァイツングは日本工業恐慌に歸し主要都市銀行亦破滅したるを以て日本は其財源の大部分を喪失せり從て本件は日本將來の發展上多大の障礙を來すべし、ドイチ・エターゲスツァイツングは日本の大國たるの地位は爲に震盪せられ米國を利し支那亦行動の自由を得たり獨逸工業は好市場を失へり、フオッシュンツァイツングは日本の地位動搖すべしとの見解は半面的なり日本は近時支那に對し其權力行使を甚しく制限し居れり、ペルリネル・ターゲブラットは日本の經濟及交通上受けたる損害は歐洲及獨逸にも影響する所あるべし、フランクフルテル・ツァイツングは此際日本

は政治上の打撃を受けたりと爲すは誇張の嫌あるも而も事態は極めて重大なり、又フオルフェルツは日本は茲暫くの間は主として其力を内部の救済に向けざるべからず従て積極的外交は之を想像するを得ずと論じ居れり。

### ●英國鋳力製造會社狀況

(八月二十四日在、倫敦帝國商務官松山晋二郎報告)

當地鐵力製造業界に有力なるグローヴセンド・スチール・エンド・チンプレート・コムバニーは今回ウールズ地方に於けるドイツフリインスチール・エンド・チンプレート・ワークス、マルデイ・チンプレート・ワークス及ケインヴァア・チンプレート・ワークスの三鐵力製造會社を約六十萬磅を以て買収せり、其目的は會社製中鋼鐵鋼板及鑄鐵類の供給先を確保するにあるものにて、右記三會社買収の結果同會社は一週六千乃至七千噸の製造能力と五十四の鐵力工場二十二の製板工場を有するに至りたり。

尙會社は最近スワンシー附近のガルンゴッチに於てグラスブルツクス炭礦を買収し燃料供給上の便を計り居れり。

#### ●エルシ鐵力類輸出量

|  |          |           |
|--|----------|-----------|
| 一九二三年一乃至四月中スワンシー・ポート・タルボット及ランネリイよりのティン・プレート、ブラック・プレート及ガルヴァナイヅド・シート輸出量左の如し(單位噸) |          |           |
| 仕向地  | ティン・プレート | ブラック・プレート |
| 濠洲   | 三、七四二    | 五八        |
| 白耳義  | 四、一一三    | 二、六七三     |
| 加奈陀  | 四、四二四    | 一、六〇三     |
| 支那及日本  | 八、六九〇    | 一四、七四三    |
| 丁抹   | 五、八二八    | 四、五〇〇     |
| 極東   | 一〇、五五五   | 一〇、三五七    |
|  |          | 三、四六八     |
|  |          | 亞鉛引シート    |
|  |          | 五〇五       |
|  |          | 一五        |
|  |          | 二〇六       |
|  |          | 一、八六〇     |
|  |          | 一二二       |

|     |          |        |       |
|-----|----------|--------|-------|
| 佛蘭西 | 一四、六二四   | 三、三五九  | 一〇    |
| 獨逸  | 五、八二四    | 四、七四七  | 二     |
| 伊太利 | 五、二五七    | 一八二    | 二〇    |
| 和蘭  | 四、一一三    | 二、一九一  | 九八    |
| 諾威  | 六、六一八    | 三四     | 一一四   |
| 葡萄牙 | 四、八三七    | 二五     | 四六四   |
| 南阿  | 七、八七五    | 一五八    | 一、〇八一 |
| 西班牙 | 四、五六〇    | 三〇〇    | 三二二   |
| 瑞典  | 一、四六六    | 五八一    | 一     |
| 米國  | 一、四二九    | 二八     | 六七    |
| 地中海 | 一〇、五四五   | 一三七    | 二二    |
| 其他  | 二、三三一    | 七七     | 二二五   |
| 計   | 一、一六、六二一 | 四二、三九七 | 八、五八二 |

### ●英國市況

(十月二十六日在倫敦若松副商務官報告)

英國の對外爲替は馬克を除き大陸諸國大體落付き對米は大陸の弗買向ひに一時四弗五十一仙半迄暴落せしも直に恢復大體弱含み。

石炭は大陸方面の需要減退にて輸出不振市價下押アドミラルチー一等炭二十八志。

銅は米國の需要減退歐大陸の不安にて大勢軟調銅六十五磅。

銑鐵一般に下押なりしも最近内外の需要増に荷放良好市價保合、クリブラド三號九十六志見當、鋼鐵製品は内外の需要旺盛に在貨拂底にて市價昂騰ブラックシートは明年三、四月頃迄は賣切れ五月積日本渡二十三磅十五志、鐵力も亦強調期近物の供給なし。

亞鉛板は東洋方面の引合漸增市價奔騰平板三十號二、三月積三十三磅見當震災當時より約一割五分方昂騰。

### ●獨逸鐵材消費額

獨逸ではルールの鐵材移出に特許を要せぬ事となつて以來、對外輸

出の激増を見越してゐるが、事實國內の各方面に鐵材の需要が増加した、め、國外輸出はその割合に増加せず、特許制時代と大した變りはない、特許廢止後ルール製鐵業者はマーク相場不安定のため、國內需要に對し金貨マークで賣出してゐるが、各種鋼材の金貨マーク相場を戰爭直前に比較すると、十割乃至二十割方昂騰してゐる、この相場昂騰の主なる原因は燃料石炭の不足せるためで、石炭には今尙三十%の税金を課せられてある、各鋼種別一噸の金貨マーク相場を戰爭直前に比較すると左の如し。(單位マーク)

|           | 現在  | 戰前  | 比較高 |
|-----------|-----|-----|-----|
| 鋼塊        | 一六五 | 八二  | 八三  |
| 鋼片        | 二〇二 | 九五  | 一〇七 |
| 型物        | 二二九 | 一一〇 | 一二九 |
| 棒鐵        | 二四〇 | 九八  | 一四二 |
| 帶鐵        | 二九九 | 一〇五 | 一九四 |
| ワイヤローツド   | 二五四 | 一一〇 | 一四四 |
| 薄板(五種以上)  | 二七〇 | 一〇五 | 一六五 |
| 同(二耗乃至五耗) | 三〇二 | 一一〇 | 一九二 |
| 同(一耗乃至三耗) | 三五九 | 一二五 | 二三四 |

### ●鐵鋼市況

#### 銑鐵

大阪方面における銑鐵商は何れも財界の狀勢に鑑み賣掛代金の回收難を懸念して賣控へて居るので自然在荷増加の傾向あり、隨つて氣配幾分軟弱であるが、東京方面は横濱港の荷役不圓滑で荷廻りの充分でない所へ最近川口方面に於ける鑄物業者が何れも鍋釜など日用品の製造に追はれ居る状態となり、勢ひ銑鐵の需用を増加して來たから未だ相場の上伸を見るに至らない、けれども氣配は著しく強調となり、即ち輪西一號分兼二浦一號品は六十四五圓見當と底堅き成行を呈するに至つた、しかして此の後罹災地方復興事業の進捗に伴ひ建築材料、水

道鐵管用その他の需要が増加するだらうから、結局先行は更らに強調に推移するものと見られて居る。

#### 鋼鐵

鋼鐵棒、型物需給は過去五箇年間の平均數量は毎月需要高は輸入一萬七千五百噸内地物二萬噸合計三萬七千五百噸で此中關西方面の消費高は六割の二萬二千五百噸を示して居る、然るに現在阪神市中在庫品は六萬噸で中二萬噸は殆んど商品としての價値なきもので、四萬噸の商品があるに過ぎず、品薄傾向を示して來た一方震災に依りて内地の供給力減退し大阪製鐵、田中鑛山、東海鑛業等月三千五六百噸の供給を爲すに過ぎず、輸入物も八月神戸入港三千噸九月七千噸(内二千八百噸見當は關東約定品の廻送品で)品不足を免れず震災當時輸入稅撤廢の爲め市價の低落を見たが直に反撥し十月初ベース物四圓三四十錢を唱へたものが月末には四圓六七十錢と昂進した、併し製鐵所製品は百二十四圓を唱へて居るが一千噸以上の注文に對しては六圓引の百十八圓で取引を爲し當地のベース物四圓六十錢は百二十圓に當るので商人は製鐵所のものを以つて需要家に振當る所から市況は最近再び氣重く四圓五十錢見當に落ち込むに至つた、而して製鐵所の市場向在荷は五六萬噸ある筈なれば市中相場が高ければ製鐵所へ買付くべく當分は製鐵所相場を中心に動くものと見られて居る。

### ●釘市況

#### 洋釘供給難

洋釘の内地需要高は最近三箇年間を平均すると年額百萬樽で、其内約六十萬樽を内地で生産し殘餘の四十萬樽は海外より輸入してゐるが、本年上半期中の輸入高は七萬六千樽に過ぎぬかち、例年に比して輸入の著しく減少してゐる一方、内地生産業者中の最大會社安田製釘所の能力が、工場の罹災によつて半減されたので、甚しき供給不足になつてゐる、安田製釘所は月額二萬八千樽の製造能力を有つてゐたが、其の内一萬樽を製造する東京工場が罹災したため、其後九州工場

が増産しても、月額二萬樽以上製造し得ない状態にあり、其他大阪其の他の群小製釘業者は何れも増産に努めてゐるが、月額合計二萬五千樽内外に過ぎぬから安田の二萬樽と合はせ約四萬五千樽であり、これに對する需要は罹災家屋の復舊に一戸一樽づゝ消費するとしても、到底需要に應じ切れぬ状態にある、従つて目先外國品が輸入されても内地の供給不足は容易に緩和されないため洋釘取扱商人は一般買思惑を試みて賣惜んでゐる、一方製造業者は安田製釘を始め何れも安値賣惜の態度を執つてゐるから、市場の品薄は容易に緩和されさうでない。

**丸釘値段**

東京銅鐵物問屋組合、東京金物問屋組合聯合共同販賣所代表者は去月七日夜會合し災後相場の一定しなかつた丸釘直段を左の如く協定した。尤も此の相場は海外から安い物が輸入される様になればそれに準じて引下げる筈である、因に此の協定直段は從來の市場相場に比し一樽に付五十錢から一圓方の安値である。(單位樽賣一貫)

|      |      |
|------|------|
| 六分   | 一・四五 |
| 七分   | 一・四五 |
| 八分   | 一・四五 |
| 一寸   | 一・四〇 |
| 一寸二分 | 一・四〇 |
| 一寸四分 | 一・三五 |
| 一寸六分 | 一・三五 |
| 二寸   | 一・四〇 |
| 二寸四分 | 一・三〇 |
| 二寸八分 | 一・三〇 |
| 三寸二分 | 一・一五 |
| 三寸六分 | 一・一五 |
| 四寸   | 一・一五 |
| 五寸   | 一・一五 |